

令和6年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	15	学校名	茨城県立水戸第一高等学校					課程	全日制		学校長名	御厩 祐司				
副校長名	高野 光章			教頭名	富澤 英士			石川 明		事務室長名	佐藤 総英					
教職員数	教諭	53	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	7	実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	5	計	79
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	139	104	152	91	150	86			441	281	18				

2 目指す学校像

○真理を愛する学問第一の校風の下、質が高く、活気ある授業や課題研究、社会と連携した教育プログラムを展開し、生徒が切問近思の姿勢で学ぶ学校
 ○自主自立の精神を重視する自由な校風の下、生徒が何ごとにも自己管理しながら主体的に取り組むとともに、中高・学年の枠を超えて切磋琢磨する学校
 ○至誠一貫・堅忍力行の校是の下、豊かな人間性や最後までやり抜く力を育むとともに、高い目標に挑む生徒をしっかりと支援する学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	社会の変化に対応するだけでなく社会に変革をもたらす、グローバルな視点をもって茨城から世界に羽ばたく、高い志をもって地域医療をはじめ地域課題の解決を先導する、といった形で社会に貢献できる者を育成する
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	難関大学や医学部医学科、海外大学への進学希望にも十分応える質の高い授業と学習支援・進路支援を展開するとともに、生徒が主体的に取り組む特別活動等を重視する
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○真理を愛する学問第一の校風を理解し、好奇心旺盛で、自ら定めた課題を深く探究しようという切問近思の姿勢のある生徒 ○自主自立の精神を重視する自由な校風を理解し、何ごとにも主体的に取り組む、多様な者と協働しようという意欲のある生徒 ○至誠一貫・堅忍力行の校是を理解し、人格を磨き、高い目標に向けて最後までやり抜こうとする気概のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題																																								
大学進学	1 国公立大学・準大学の合格者数については、現役生は140名、総数も190名と、昨年から1クラス減となりながら一昨年度並みの合格者数となった。また難関大学（東北・東京・東京工業・一橋・名古屋・京都・大阪）については、現役34名、既卒17名が合格した。東京大学については、現役6名、既卒5名で計11名合格した。共通テストの難化に翻弄されることなく、現役合格よりも第一志望を貫かせた結果である。 2 医学科については、国公立大学・準大学に現役14名記録が残る限り過去最多、既卒6名の計20名が合格した。筑波大学については現役4名、既卒2名の計6名が合格し、全国1位となった。また、東京医科歯科大学および秋田大学に現役で2名の合格者を出すことができた。さらに、自治医科大、産業医科大を含む私立大にも現役既卒合わせて、17名が合格した。 3 早稲田、慶應義塾および上智の難関私立大学については、現役36名、既卒21名の計57名が合格した。	1 教科指導をより一層充実させ、各教科・科目の目標を達成させると同時に、生徒一人ひとりの進路志望実現に必要な本物の学力を身に付けさせること。 2 科目選択に関するガイダンスを充実させるとともに、広い視野から将来を見据え、高い志をもって大学進学を考えるよう支援すること。 3 3年間を見通した進路支援を実施し、早期に受験態勢に入れるように工夫・改善すること。 4 国公立大学個別試験・私立大学試験を勝ち抜くための確かな学力の養成のため、不断の授業改善に取り組むとともに、大学別研究会の充実など個別の入試に的確に対応する精緻な学習プログラムの構築を図り実行すること。 5 追加となる情報Ⅰを含め「大学入学共通テスト」に十分に対応できる方策を、教職員の共通理解のもとで、検討、実践していくこと。																																								
	【過去5年間の大学入試結果概要】R6.4.1現在 <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国公立大学・準大学合格者数</td> <td>162 (247)</td> <td>185 (249)</td> <td>197 (191)</td> <td>157 (224)</td> <td>140 (190)</td> </tr> <tr> <td>国公立・準大学医学部(医)合格者数</td> <td>11 (20)</td> <td>11 (23)</td> <td>5 (9)</td> <td>12 (23)</td> <td>14 (20)</td> </tr> <tr> <td>私立大学医学部(医)合格者数</td> <td>2 (33)</td> <td>6 (16)</td> <td>4 (10)</td> <td>5 (24)</td> <td>3 (17)</td> </tr> <tr> <td>難関私立大学合格者数</td> <td>33 (77)</td> <td>32 (51)</td> <td>68 (105)</td> <td>53 (102)</td> <td>36 (57)</td> </tr> <tr> <td>実合格率(全体)</td> <td>77.2</td> <td>78.5</td> <td>70.5</td> <td>74.1</td> <td>76.5</td> </tr> <tr> <td>実進学率(全体)</td> <td>68.8</td> <td>69.4</td> <td>59.2</td> <td>64.2</td> <td>68.0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">*()内は過年度卒を含めた数字</p>			R2	R3	R4	R5	R6	国公立大学・準大学合格者数	162 (247)	185 (249)	197 (191)	157 (224)	140 (190)	国公立・準大学医学部(医)合格者数	11 (20)	11 (23)	5 (9)	12 (23)	14 (20)	私立大学医学部(医)合格者数	2 (33)	6 (16)	4 (10)	5 (24)	3 (17)	難関私立大学合格者数	33 (77)	32 (51)	68 (105)	53 (102)	36 (57)	実合格率(全体)	77.2	78.5	70.5	74.1	76.5	実進学率(全体)	68.8	69.4	59.2
	R2	R3	R4	R5	R6																																					
国公立大学・準大学合格者数	162 (247)	185 (249)	197 (191)	157 (224)	140 (190)																																					
国公立・準大学医学部(医)合格者数	11 (20)	11 (23)	5 (9)	12 (23)	14 (20)																																					
私立大学医学部(医)合格者数	2 (33)	6 (16)	4 (10)	5 (24)	3 (17)																																					
難関私立大学合格者数	33 (77)	32 (51)	68 (105)	53 (102)	36 (57)																																					
実合格率(全体)	77.2	78.5	70.5	74.1	76.5																																					
実進学率(全体)	68.8	69.4	59.2	64.2	68.0																																					

教育プロジェクト、特別活動等	<p>1 米中派遣、文理・融合講座、キャリア探究対話、探究力向上セミナー、GRITセミナーなど「+4学年」による新たな教育プロジェクト（チャレンジ・プロジェクト）を企画し、中高合同で実施することができた。</p> <p>2 クラスマッチ・学苑祭・歩く会等の行事は、生徒が主体となる各実行委員会（13の常置委員会）を組織し生徒の自主的な運営のもとに活発に行われている。その中でリーダー育成の観点に力を入れている。新たにボランティア委員会、情報委員会も発足した。</p> <p>3 部活動は体育部16団体、文化部16団体、同好会3団体が活動しており、加入率もたいへん高く、9割を超えている。体育部では山岳部、文化部では美術部、放送部、合唱部、英語研究部、吹奏楽部が全国大会に出場し硬式野球部は21世紀枠関東・東京代表校に選抜された。主体的な活動運営を促し、文武両道を目指すようタイムマネジメントを重視している。</p>	<p>1 新設した教育改革部を中心に、教育プロジェクトの改善・充実を図っていく。</p> <p>2 行事の運営は生徒会及び各種委員会が主体となっていて行っているが、より効率的・効果的な運営が図られるよう、必要な支援を行っていく。</p> <p>3 クラス減による各団体の部員減や部活動改革に対応する。</p>																																																				
働き方改革	<p>1 月別の超過勤務時間</p> <table border="1" data-bbox="338 435 1469 560"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均の超過勤務時間</td> <td>34:23</td> <td>35:41</td> <td>37:58</td> <td>29:47</td> <td>13:29</td> <td>28:31</td> <td>30:17</td> <td>26:42</td> <td>23:29</td> <td>21:16</td> <td>22:34</td> <td>18:42</td> </tr> <tr> <td>30時間以内の教職員数</td> <td>33</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>39</td> <td>61</td> <td>39</td> <td>37</td> <td>45</td> <td>44</td> <td>49</td> <td>47</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>45時間以内の教職員数</td> <td>53</td> <td>52</td> <td>45</td> <td>55</td> <td>68</td> <td>56</td> <td>53</td> <td>60</td> <td>62</td> <td>64</td> <td>66</td> <td>69</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 月平均時間外在校時間 30時間53分 月平均45時間超過者割合 20.6% 月平均80%超過者割合 3.3%</p> <p>3 超過勤務時間が年間360時間以内 41名(令和5年度)</p>		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均の超過勤務時間	34:23	35:41	37:58	29:47	13:29	28:31	30:17	26:42	23:29	21:16	22:34	18:42	30時間以内の教職員数	33	28	29	39	61	39	37	45	44	49	47	51	45時間以内の教職員数	53	52	45	55	68	56	53	60	62	64	66	69	<p>1 超過勤務時間数は減少しているが、今後も対策を検討、実施する。（月45時間以内、年360時間以内を目指す）。</p> <p>2 会議資料等のペーパーレス化、進行の効率化を図る。</p> <p>3 校務分掌の見直しを図る。</p>
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																										
平均の超過勤務時間	34:23	35:41	37:58	29:47	13:29	28:31	30:17	26:42	23:29	21:16	22:34	18:42																																										
30時間以内の教職員数	33	28	29	39	61	39	37	45	44	49	47	51																																										
45時間以内の教職員数	53	52	45	55	68	56	53	60	62	64	66	69																																										

5 中期的目標

<p>1 中高連携の下で教育課程や学習・進路支援の改善・充実を進め、中高一貫教育校としても我が国を代表するリーディングスクールとして認知されること</p> <p>2 同窓会（知道会）や福祉団体等とも連携し、経済面等で困難な状況にある者への支援や情報提供を充実させ、教育の機会均等を徹底すること</p> <p>3 校務の合理化・効率化、働きやすい職場環境を絶えず追究し、学校運営の持続可能性を最大限高めること</p>

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教育課程・学習支援の改善・充実	<p>①新課程での大学入試への対応を進めるとともに、中高連携・教科横断で授業改善を図り、生徒の授業満足度90%以上を目指す。</p> <p>②DXハイスクールへの採択を踏まえ、教育・学習活動等におけるICTの有効活用を進める。</p> <p>③科学オリンピックをはじめ、他校生等と切磋琢磨する「他流試合」への参加を奨励し、活躍を支援する。</p>
進路支援の改善・充実	<p>④難関大学（東大・京大・阪大・東北大・名大・東工大・一橋大）や医学部医学科をはじめ、生徒及び既卒生の第一志望実現を支援する。</p>
中高・学年の枠を超えた活動の推進	<p>⑤+4学年活動など、附属中との中高連携での活動や特別活動の改善・充実を図るとともに、部活動改革を推進する。</p>
健康・安全の確保と法令遵守の徹底	<p>⑥最後までやり抜く力の育成や教育相談環境の整備を図るなど、生徒の心身の健康・安全を確保する。</p> <p>⑦業務改善を進め、職員の心身の健康・安全を確保するとともに、法令遵守を徹底し、違反件数ゼロを目指す。</p>